

「ひと・もの」協働輸送プロジェクト 路線バス利活用による客貨混載

北海道 天塩町 副町長 齊藤啓輔

公共交通・物流・地域の事情と背景

【公共交通・バス会社】



沿岸バス

- ◇過疎地域の路線バス = 空席が多い
- 利活用（収益性の向上）を図りたい

【宅急便事業者】



ヤマト運輸

- ◇首都圏への宅急便は配達に時間を要する
 - 配達時間を短縮できればサービス向上
 - 新たな需用の喚起と創出（生鮮物など）
- ◇ドライバー労働時間の短縮（コストカット）を図りたい

【地域】



天塩町

- ◇地域の食材を首都圏に販路開拓したい
 - 都市から遠隔地にあることで到着まで時間を要する
 - 到着時間を短縮して、付加価値化を図りたい



国土交通省

- ◇2017.9.1～ 過疎地域での「貨物」「旅客」運送を相互に「かけもち可」（規制緩和）

ひと・もの協働輸送「客貨混載」のしくみ



路線バスの空席をシェア（荷物混載）によるメリット
「配送時間の短縮」「需用の喚起・創出」「バスの収益性向上」
「配送ドライバーの労務縮減」



三者による連携協定締結

〔連携協定の締結 2017.8.28〕



【協定事項】

- (1) 天塩町産品販路拡大の為に円滑な輸送、物資拠点に関する事項
- (2) 路線バスを利用した荷物の運送に関する事項
- (3) 三者の協議により定める事項

運用開始～その後の可能性

〔2017.9.1より運用開始〕



◇天塩町における鮮度が重要な農水産物（乳製品・魚介類）を翌日に首都圏に届けられる（朝獲れのを、午前中受付、翌日に届けられる）→ 付加価値化による販路拡大

◇バス空席の**シェアリング**による生産性の向上

◇別経路、他自治体との連携（他自治体を縦貫する路線：他自治体への対応・展開の可能性）